

甲南女子学園の校歌

甲南女子の校歌は明治天皇の御製が1番の歌詞、2～4番の歌詞は昭憲皇太后（明治天皇の皇后）。校訓である「清く、正しく、優しく、強く」が、それぞれ1番から4番に対応しているという。

この校歌は第一校歌と呼ばれ、昭和2年3月に制定。甲南高等女学校の表甚六校長は、「大抵の校歌には学校の環境を詠み込んである。しかし世は流転し不測の天変地異もある。例えば甲南の野辺に雲雀鳴く時もあり、海浜没落して蒼海となるかも知れない。そこで永久に変らぬもので誰もが批評せず、而して本校教育の指標となるようなものを第一校歌とし、之を永恆的のものと定めた」とする（「回顧三十年」『学園創立三十周年記念誌』昭和26年）。

また、第二校歌については、「生徒の愛校心を鼓舞するのを目的とし、メロディーも生徒の心情にピッタリ合うようにするために、歌詞も歌曲も毎年改作することとして上級生が之に当るものとした」としており、この伝統は今日でも甲南女子中高等学校で続けられている。

「第一校歌」の作曲は、当時、東京音楽学校（現・東京芸術大学）教授であった信時潔。表校長は自分で東京に出向いて依頼したというが、「先生は当時作曲の大家であつて曲風高尚の定評があつた。先生は快諾され齋戒沐浴して作曲せられたのであつた。作品は謹厳莊重、君が代の曲よりよいと言う専門家もあつた」と書いている。

信時潔は大阪にキリスト教牧師の子として生まれ、東京音楽学校で学び、東京音楽学校本科作曲部の創設にも関わった人物で、戦争中には第二国歌とも言われた「海ゆかば」の作曲で知られている。生涯に作曲した校歌や社歌・団体歌の数は1000曲を越え、兵庫県内でも甲南学園をはじめ、灘高校、甲陽学院、神戸高校、長田高校、御影高校、赤穂高校等の校歌も作っている。

東京芸術大学図書館蔵の自筆譜にも「甲南高等女学校第一校歌」とあることから、表校長は校歌制定の趣旨についてもきちんと説明していたようだ。出だしの「めにみえぬ」には現在とは別の2パターンも書かれており、作曲家の舞台裏が窺えるのも興味深い。

めにみえぬ かみの心に 通ふこそ 人の心の まことなりけれ
かへりみて 心に問はは 見ゆへきを 正しき道に 何まよふらむ
朝夕の しはの烟も たてかねて なけきこるらむ 宿をこそ思へ
人心 かからましかは 白玉の ま玉は火にも やかれさりけり